



## 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と 資機材等展示・訓練



総務省消防庁

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練  
長野県実行委員会

## 目 次

|    |                           |   |
|----|---------------------------|---|
| 1  | 目 的                       | 1 |
| 2  | 日 時                       | 1 |
| 3  | 場 所                       | 1 |
| 4  | 展示・訓練内容                   | 1 |
| 5  | 協力機関                      | 2 |
| 6  | 展示・訓練等に係る人員               | 2 |
| 7  | 服 装                       | 2 |
| 8  | 駐 車 場                     | 2 |
| 9  | 統一事項                      | 2 |
| 10 | 中止判断について                  | 3 |
| 11 | 事務局窓口                     | 3 |
|    | (別紙1) 案内図                 | 4 |
|    | (別紙2) 配置図                 | 5 |
|    | (別紙3) 駐車場案内図              | 6 |
|    | (別紙4) 中止時連絡先              | 7 |
|    | (参考資料1) 宿営活動時の長野県実行委員会モデル | 8 |
|    | (参考資料2) 展示訓練概要            | 9 |

## 1 目的

今後の緊急消防援助隊の受援又は応援活動において、長野県隊が協力し円滑に活動するために実施するもの。

- (1) 緊急消防援助隊派遣時の宿営活動における感染対策や女性消防吏員派遣等における課題について、長野県実行委員会モデルを提案し宿営環境改善を図る。
- (2) 県内相互応援及び緊急消防援助隊派遣時の円滑な連携と安全管理の徹底を図るため、長野県内消防本部に配備された特殊車両等の特徴を把握する。
- (3) 災害時の捜索救助において災害救助犬の活動が増加していることから、災害救助犬の特性や連携要領について理解する。

2 日時 令和3年10月25日(月) 13時15分から15時45分まで  
※小雨決行

3 場所 道と川の駅「おとぎの里」一帯(別紙1案内図参照)  
※13時10分までに集合する。(別紙2配置図参照)

## 4 展示・訓練内容

(1) 宿営活動時の長野県実行委員会モデル(ソロテントを使用した宿営)の展示

- ア ソロテントの設定要領
- イ スペース・重量の対比
- ウ 居住性の確認
- エ プライバシー保護・感染症防止対策の確認

(2) 県内特殊車両等の訓練(重機・水陸両用バギー)

- ア 水陸両用バギー(長野市消防局)  
同乗訓練での車両性能確認
  - (ア) 傾斜での登坂性能
  - (イ) 不整地とアスファルト道路での転回
  - (ウ) 河川内浅瀬での走行
  - (エ) その他注意事項
- イ 重機(松本広域消防局)
  - (ア) アタッチメントの交換
  - (イ) 土砂運搬軽量コンベア(バルコン)の設定
  - (ウ) 作業半径の確認
  - (エ) オペレーター席からの死角の確認
  - (オ) その他作業上の注意事項

(3) 災害救助犬の訓練

- ア 災害救助犬について
  - (ア) 災害救助犬とは
  - (イ) 救助犬の捜索の特徴について
  - (ウ) 救助犬の捜索能力について
- イ 連携活動の流れ
- ウ 捜索活動訓練

## 5 協力機関

- (1) 会場協力 道と川の駅 おとぎの里
- (2) 車両誘導 上田地域広域連合消防本部
- (3) 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの展示
  - ア 株式会社ヘリテイジ
  - イ 佐久広域連合消防本部
- (4) 県内特殊車両等の訓練
  - ア 長野市消防局
  - イ 松本広域消防局
- (5) 災害救助犬の訓練  
特定非営利活動法人 救助犬訓練士協会

## 6 展示・訓練等に係る人員

- (1) 駐車場誘導 上田地域広域消防本部の参加者から 5 名程度
- (2) 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの展示
  - ア 佐久広域連合消防本部 4 名
  - イ 長野県実行委員会事務局員 2 名
- (3) 県内特殊車両等の訓練（重機・水陸両用バギー）
  - ア 松本広域消防局重機隊編成隊員及び安全管理等必要人数
  - イ 長野市消防局大規模風水害編成隊員及び安全管理等必要人数
  - ウ 長野県実行委員会事務局員各 1 名
- (4) 災害救助犬の訓練
  - ア 救助犬 1 頭とハンドラー等のスタッフ
  - イ 長野県実行委員会事務局員 1 名

## 7 服装



- (1) 展示・訓練等担当者 各機関で定めた服装及び装備・マスク着用
- (2) 参加者 活動服・編上げ靴・ヘルメット・手袋・マスク着用  
必要により雨具・記録機材・筆記用具

## 8 駐車場

- (1) 特殊車両運搬用車両は、展示スペース付近に駐車する。（別紙 2 配置図参照）
- (2) 救助犬訓練士協会は、おとぎの里駐車場を利用する。
- (3) 参加者等は、道と川の駅「おとぎの里」一帯のスペースを使用し、道の駅駐車場は使用しない。  
なお、一般利用者に迷惑が掛からないよう十分配慮する。（別紙 3 駐車場案内図参照）
- (4) 駐車スペースが限られるため乗り合わせとする。

## 9 統一事項

- (1) 展示訓練及び参加に係る、旅費等の諸手当は各消防本部が負担する。
- (2) 会場の道と川の駅「おとぎの里」は事務局で借用しますが、展示提案スペースについては各担当（消防本部・事務局）にて設定する。なお、設定は 12 時 45 分までに終了しておく。
- (3) スペースは事務局で準備するが、必要に応じてラバーコーン等を設定する。

- (4) 説明時に必要な拡声器等の資器材は担当する消防本部等で準備する。
- (5) 各展示訓練スペースでの安全管理は、担当者だけでなく全ての参加者が協力して実施する。
- (6) 準備・撤収作業等は、参加者の皆様方に御協力をお願いする場合がある。
- (7) 展示訓練は4～5グループに分け、概ね30分のローテーションとする。  
( 宿営 → 重機 → 災害救助犬 → バギー )

## 10 中止判断について

- (1) 次に示す場合は、長野県実行委員会訓練事務局が、10月25日(月)8時00分までに中止を決定する。
  - ア 長野県内において、震度5弱以上の地震が発生し、又は長野県内の広範囲において大雨警報、洪水警報等が発表され、災害対策が必要と見込まれる場合
  - イ 国内で大規模災害等が発生し、緊急消防援助隊の出動要請等の可能性が考えられる場合
- (2) 新型コロナウイルス感染症が複数地域において感染レベル4以上となるなど、著しく拡大し実施が困難と判断した場合
- (3) その他危機管理対策等を講ずる必要が生じた場合
- (4) 訓練の中止を決定した場合は、長野県実行委員会事務局から各消防本部及び各関係機関担当者宛てに、電話又はメールにより連絡を行う。(別紙4 連絡先一覧)

## 11 事務局窓口

長野県実行委員会事務局

〒380-0917 長野市大字稲葉字八幡田沖 2413-11 (長野県南俣庁舎 3階)

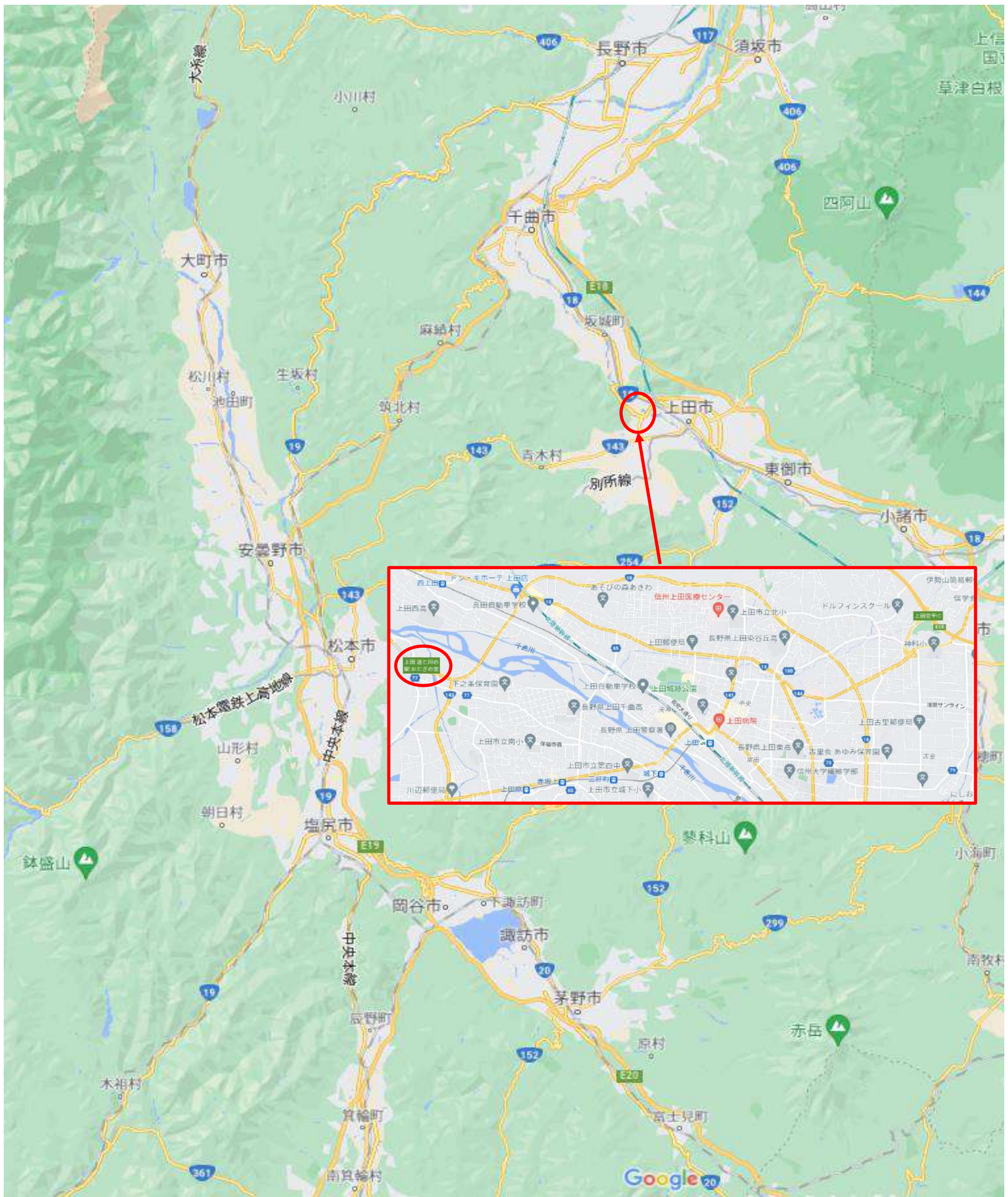
TEL 026-219-3265

FAX 026-219-3266

E-mail:kinentai-r3@eos.ocn.ne.jp



# 案内図





# 配置図





## 駐車場案内図



 駐車場担当

※できるだけ、グラウンド北側及び隣接i駐車場を利用する。  
ただし、降雨や車両台数等で半過ヘリポートを使用することもあります。

※盗難防止のため確実に施錠する。

※一般車両の駐車に配慮する。



## 中止時の連絡先一覧

## 消防本部

| 本 部 名        | 電 話          | ファックス        | メー ル                              |
|--------------|--------------|--------------|-----------------------------------|
| 長野市消防局       | 026-227-8000 | 026-226-8461 | shoubou@city.nagano.lg.jp         |
| 松本広域消防局      | 0263-25-0119 | 0263-25-3987 | shobo@m-kouiki.or.jp              |
| 佐久広域連合消防本部   | 0267-64-0119 | 0267-62-7745 | firehonbu@areasaku.or.jp          |
| 諏訪広域消防本部     | 0266-21-1190 | 0266-21-2119 | shobohonbu@union.suwa.lg.jp       |
| 上田地域広域連合消防本部 | 0268-26-0119 | 0268-23-6901 | shobo-honsomu@area.ueda.nagano.jp |
| 飯田広域消防本部     | 0265-23-0119 | 0265-22-0099 | honbu@119.iida.nagano.jp          |
| 上伊那広域消防本部    | 0265-72-0119 | 0265-72-0712 | shoubou-honbu@union-kamiina.jp    |
| 岳南広域消防本部     | 0269-23-0119 | 0269-22-5991 | gakunan@poplar.ocn.ne.jp          |
| 千曲坂城消防本部     | 026-276-0119 | 026-276-9119 | chikumasakaki@fdcs.or.jp          |
| 北アルプス広域消防本部  | 0261-22-0688 | 0261-21-3310 | honbu@119kitaalps.jp              |
| 須坂市消防本部      | 026-245-0119 | 026-248-4460 | s-shobo@city.suzaka.lg.jp         |
| 木曾広域消防本部     | 0264-24-3119 | 0264-24-2929 | syoubou@kisoji.com                |
| 岳北消防本部       | 0269-62-0119 | 0269-62-3347 | gakuhoku@iiyama-catv.ne.jp        |

## 関係機関

| 関係機関名                | 電 話           | ファックス        | メー ル                          |
|----------------------|---------------|--------------|-------------------------------|
| 道と川の駅 おとぎの里          | 0268-75-0587  | 0268-75-0586 | c1413@otoginosato.jp          |
| 株式会社ヘリテージ            | 0263-82-0141  | 0263-82-0143 | info@heritage.co.jp           |
| 救助犬訓練士協会（村瀬）         | 080-5067-4356 |              | hq@rdta.or.jp                 |
| 千曲川河川事務所 戸倉出張所       | 026-275-0133  | 026-275-6671 | yamabe-k844w@mlit.go.jp       |
| 長野県上田建設事務所（維持管理課管理係） | 0268-25-7164  |              | ueken-seibi@pref.nagano.lg.jp |
| 上田市都市建設部交通政策課        | 0268-23-5011  | 0268-23-5138 | kotu@city.ueda.nagano.jp      |
| 上小漁業協同組合             | 0268-22-0813  | 0268-22-5853 | josyogyokyo@po6.ueda.ne.jp    |



## 宿営活動時の課題

- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・女性隊員の緊急消防援助隊への参加
- ・宿営設備の高コスト化
- ・後方支援活動スペースの増大
- ・設営の負担増

等

## 現状

エアertentによる  
複数人での休養・仮眠



## 問題点

- ・感染対策が不十分・十分に対応できない
- ・宿営時における女性隊員の(男性隊員も)不安
- ・エアertentや付随する設備が高額 → 更新困難
- ・登録隊数の増加やエアertent内の人数制限を行うことでテント数が増加 → 必要面積 増
- ・高重量、資機材の増加で後方支援隊の負担も増加

## 長野県実行委員会モデル

## 個人テント(ソロテント)の集団宿営化

### メリット

- ・1人用のため「密」が回避できる → 換気不要 体調不良時の専用救護室が不要
- ・プライバシーが確保される → 女性のみならず男性も気を使わない
- ・1人分1kg以下と軽量 本体、ポール、ペグのみで設営できる
- ・レイアウトに幅ができる
- ・低コスト 1人当たり5万円前後
- ・使用後のメンテナンスが容易
- ・宿営に必要となる面積の縮小化



### デメリット

- ・導入にあたっての新規購入
- ・隊員の数だけテントが必要
- ・ペグ打ちができない地盤の対応 アスファルト・コンクリート
- ・同種テントが並ぶため他者のものとの識別が難しい
- ・天候の影響
- ・情報共有 意思疎通

### 令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練 後方支援活動訓練において

- ・長野県相互応援隊(中南信ブロック隊)の一部の宿営・給食訓練を「長野県実行委員会モデル」で行うことにより、有効性を検証
- ・個人テントの設営にかかる時間、使用感(体力回復具合、プライバシー関連)等を後日調査
- ・使用テントは「株式会社ヘリテイジ」製品を検討 → 県内企業であり、救助用品の開発も行っている
- ・既存エアertentは休養・仮眠には使用しないが、共有スペースに使用する予定
- ・個人テントであっても感染防止対策は徹底する



## 松本広域消防局

### ドラグショベル (バックホウ)



|         |  |
|---------|--|
| 機械質量    | 3,480 kg                                       |
| 機体質量    | 2,980 kg                                       |
| エンジン    | 水冷3気筒直接噴射式ディーゼル                                |
| 燃料タンク   | 42ℓ  |
| 登坂能力    | 30°  |
| バケット容量  | 山積 0.09 m <sup>3</sup> ・平積 0.06 m <sup>3</sup> |
| ブレードチゼル | 口径 58 mm 本体質量 175 kg                           |
| ブレード打撃数 | 550～1100bpm                                    |
| カッター切断力 | 730 kN   |
| カッター開口幅 | 340 mm   |
| フォーク開口幅 | 1200 mm  |

#### 特徴

#### アタッチメントの交換で災害時の用途はさまざま

バケット・ブレード・カッター・フォークを使い分けることで、土砂崩落等による障害物を除去し、道路啓開を行うとともに、救助隊等と連携して活動障害となる障害物の除去を行い、効果的な救助活動を行う車両。大規模工場火災等の残火処理時には、収容物の排出活動にも活用できる。

## 長野市消防局

### 水陸両用バギー



|       |           |         |
|-------|-----------|---------|
| 全長    | 3,020 mm  |         |
| 全幅    | 1,525 mm  |         |
| 全高    | 1,900 mm  |         |
| 乗車定員  | 陸上        | 6名      |
|       | 水上        | 4名      |
| 最高速度  | 陸上        | 32 km/h |
|       | 水上        | 4 km/h  |
| 登坂能力  | 30°       |         |
| エンジン  | V型2気筒ガソリン |         |
| 排気量   | 747 cc    |         |
| 燃料タンク | 27 リットル   |         |

#### 特徴

#### 8輪によって高い走破性を有し、冠水地域において機動的な人命救助活動に期待

津波や大規模風水害での活動を支援するための小型車両。瓦礫や堆積した土砂の上を8輪によって走行でき、隊員や要救助者だけでなく資機材等の搬送にも活躍できる。

水上においても移動が可能な水陸両用性能を有し、様々な災害現場での活動が期待できる。



# RDTA 救助犬訓練士協会

## 災害救助犬



(写真：RDTA救助犬訓練士協会 Facebook から引用)

災害救助犬は、災害により行方不明または位置特定が困難な要救助者を検索するための犬で、地震で倒壊した建物に取り残された要救助者、土砂崩れで埋もれた要救助者、山林での行方不明者等と多様である。

浮遊臭追及といわれる検索方法で生体要救助者特有の臭気を探し出し、要救助者を検索する犬を災害救助犬として扱う。基本的には生体要救助者にのみ反応するように訓練されており、遺体には反応しない。

風向きによっては数百メートル離れた要救助者の臭いにも反応することができ、人間の数千から数億倍の臭覚とも言われる。人間が感じる悪臭を犬も同様には感じないそうです。

現場にいる人間の中から、歩行している、座り込んでいる、倒れている等の状況の違いを目視で認識することや、救助者と要救助者の個人臭気の違い、ストレスを受けている人間の臭い等を嗅ぎ分けて反応する。